

令和5年度 【神戸市】認知症地域支援推進員活動報告

【神戸市】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：95名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 認知症ケアパスの配布（区、地域包括）
 - 認知症サポート医、認知症疾患医療センター等との連携
 - 認知症ライフサポート研修の企画・運営（区、地域包括）
 - 「高齢者安心登録事業」（行方不明の心配がある高齢者の事前登録、メール配信事業）における申請受理、利用者本人との面談（地域包括）、登録情報管理・メール配信（市社協）
 - 認知症初期集中支援事業における対象者の抽出、チーム員（医療・介護推進財団、市社協）初期集中支援チームとの連携（地域包括）
 - 認知症カフェの後方支援
 - 認知症高齢者等声かけ訓練の企画・実施（区、地域包括）

報告者氏名：神戸市福祉局高齢福祉課 山下祐輝
（具体的活動報告）：御影北部あんしんすこやかセンター

認知症の人にやさしいまちづくり条例の4つの柱にそって、施策を展開

予防及び早期介入

- ・ WHO、神戸医療産業都市、大学、研究機関等との連携による取り組み

治療及び介護の提供

- ・ **早期診断体制の確立**
- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ 認知症疾患医療センター（市内7か所に設置）

地域の力を豊かにしていくこと

- ・ 交流できる環境や社会参加の場の整備
- ・ 中学校区単位での認知症高齢者等への声かけ訓練の実施
- ・ **行方不明高齢者早期発見事業**の実施
- ・ 市民への啓発、児童、生徒への教育の推進

事故の救済及び予防

- ・ **認知症と診断された人による事故に関する救済制度の創設**
- ・ 認知症の疑いがある人の運転免許自主返納推進
- ・ 移動手段の確保等、地域での生活支援

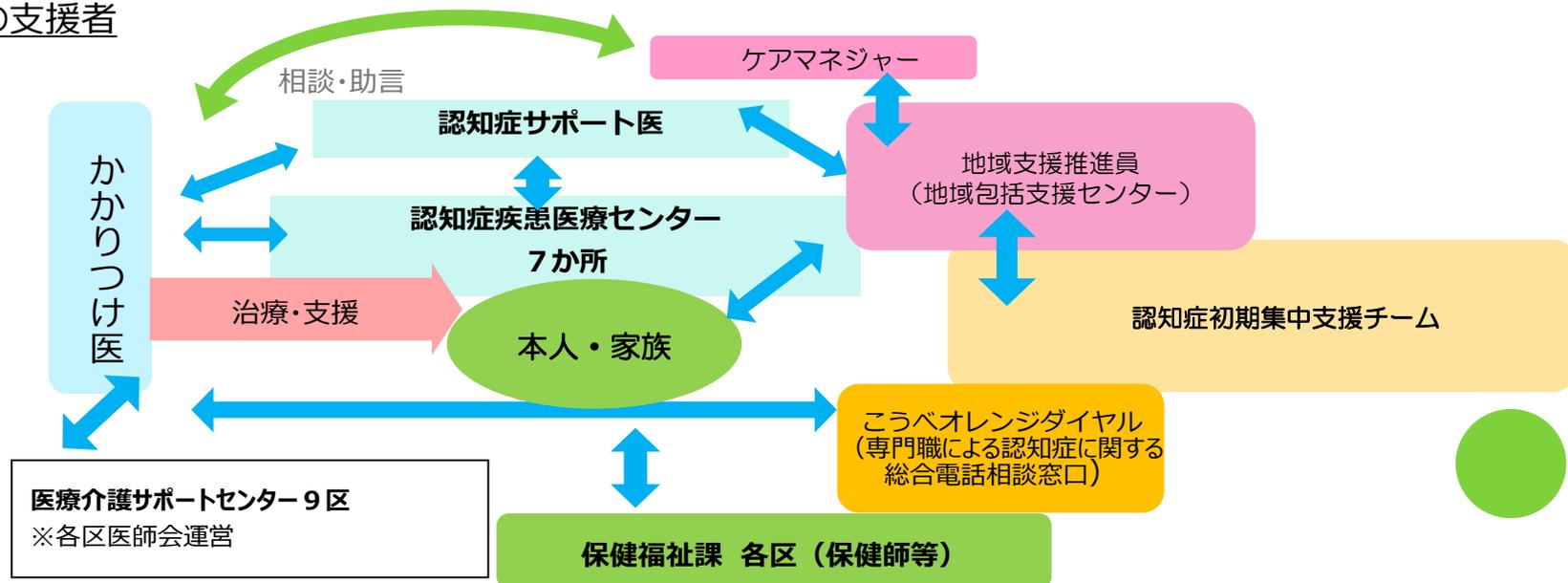
【取組例】

認知症カフェ（34か所）、認知症サポーター（約13万人）、認知症ケアパスの作成・配布、認知症地域支援推進員の配置（95人）、高齢者安心登録事業（捜査協力者約720名登録）、行方不明者緊急保護事業、認知症高齢者等声かけ訓練

◎その他の社会資源

- ・ KOBEみまもりヘルパー事業（介護保険外サービス）
- ・ 若年性認知症事業（デイサービス等職員・ケアマネジャー向け研修、交流会・サロン（神戸市社会福祉協議会・老人保健施設主催の2か所））
- ・ 県警による取組み（支援対象者情報提供制度）

日常の支援者



標題 認知症サポートネットワークを中心に地域で認知症の方を支える

笑顔をつなぐネットワーク会議（認知症サポートネット）発足（H23）
当時、地域で徘徊を繰り返していた方を支えるためにできたネットワーク

☆メンバー：交番・隣接地区の店舗・認知症家族の会・民生委員・銀行・介護保険事業所・居宅介護支援事業所・センター職員など

☆活動内容

- ・ 認知症の個別ケースの支援方法などについて情報共有
- ・ 男性介護者の集いの立ち上げについて話しあう
- ・ 地区ネットワーク会議との合同研修の開催
- ・ 認知症サポーター養成講座開催



活動を続ける中でメンバーより
 地域の高齢者のための集いの場が必要！
 認知症カフェを立ち上げたい！
 との声上がる。
 ⇒えがお喫茶（認知症カフェ）立ち上げ（H28）

- ・ 毎月第3土曜日の午後、地域の高齢者施設のホールにて開催
- ・ ボランティアによるギター演奏での歌声喫茶
- ・ 手話歌や脳トレ
- ・ 毎回30～50名の参加

えがお喫茶
(認知症カフェ)

この度、朝影・住吉の山手地域にこだわらずに気軽に集えるカフェを立ち上げました。第1回目は、ギター生演奏での歌声喫茶をメインとして、その他様々なメニューを用意致しました。ぜひお気軽にお越し下さい。ご来店お待ちしております。

日時：平成28年5月21日(土)13:30～15:30
 場所：特別介護老人ホーム「友愛苑」1階ロビー
 内容：認知症予防のグッズ(本・DVD等)・展示コーナー
 ギター生演奏による歌声喫茶(14:00～15:00)
 コーヒー・紅茶 高齢者相談コーナー

※ 参加費：無料(飲み物 100円)
 ※ 運営主体：笑顔をつなぐネットワーク会議

「認知症カフェ」とは、認知症の人とそのご家族、介護に関わる方、地域住民、ご近所でも参加していただける場所です。

<お問い合わせ>
 TEL: 078-843-2207
 朝影北部あんしんすこやかセンター
 担当：山本・中塚

・令和5年4月 地域ケア会議開催

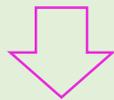


テーマ

地域の認知症に関する現状等、地域の持つ課題、集いの場の再開について

コロナ禍の中、地域の集い場が活動休止。

- ・ 交流が途絶えた。マスク越しで記憶に残らない。
 - ・ 認知面の低下が進んだと感じる人が多く心配
 - ・ 閉じこもってしまっているのか、最近姿を見かけなくなった。
 - ・ 足が弱ったから出かけられなくなったとの声を聞くことが多い。
- などの報告があった。

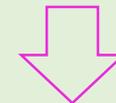


令和5年5月、コロナが5類になったことに合わせて認知症カフェを再開

- 5月：ギターを生演奏による歌声喫茶
 - 6月：認知症疾患医療センターの職員による勉強会の実施
- 参加者が個別に講師に相談され、認知機能検診の受診に繋がった

・ 山の手で集いの場が少ない

- ・ 活断層に囲まれており、土砂災害警戒区域を含んでいる。
こうした環境の中、認知症独居の方の避難のことが心配。
- ・ 認知症独居の方が近隣のスーパーで問題行動をしている。



地域ケア会議の開催

- 7月：認知症のある支援困難事例について
- 9月：認知症と防災

令和5年度 笑顔をつなぐネットワーク会議を中心とした活動

☆5月：えがお喫茶の再開
(以降毎月第3土曜日開催)

☆6月：元気アップクラブ（介護予防体操）の再開
(以降毎月第1金曜日開催)



☆7月：地域ケア会議（認知症のある支援困難事例について）
参加者18名

☆8月：夏まつり

☆9月：地域ケア会議（認知症と防災）
参加者20名



☆11月：認知症サポーター養成講座
参加者10名

笑顔をつなぐネットワーク会議の活動を振り返って

・笑顔をつなぐネットワーク会議が発足して10年以上になる。これは地域に暮らす認知症のAさんを地域で支えたいとの思いから発足したネットワークだが、定期的な話し合いを重ねる中で、地域の高齢者のための集い場の必要性、地域に暮らす認知症高齢者の現状の共有、その他さまざまな地域課題の共有がなされていった。

・認知症の方を笑顔で囲みたい、地域で繋がっていききたいとの強い思いをネットワークのメンバーが共有し続けていることで、コロナ禍を経ても地域の繋がりがしっかりと継続できていると感じている。この繋がりは地域の大きな力になっていると思っている。



・最後に・・・

・私たちセンター職員は業務を通して地域を知ることが殆どである。そこに暮らす地域の方は実感として地域課題を把握されている。センター職員にとって地域の方々との交流、こまめな情報交換、情報共有が大切であることをあらためて実感している。

・地域の方のみならず、近隣の店舗・医療機関・高齢者施設など、様々な関係機関との連携の大切さも再確認した。地域の集い場に認知症疾患医療センターから出向いて頂いたり、近隣の店舗の方からタイムリーに気になるケースの情報提供があったりしている今の関係性を今後も大切にし、認知症の方もともに暮らせる地域づくりに取り組んでいきたい。